

# 三月の保育室

主として卒業園児の組

## 菊池ふじの

三月の声をきくと急に  
あたりが明るく楽しそう  
になってくる。長い寒い  
冬にあきあきした人びと  
の心は、どんなにかこの  
春のくるのを待ちわびた  
ことであろう。

木の肌は青みがかって  
くるし、芽は日ごとにふ  
くらみがましてくる。鳥  
のさえずりも何となくの  
どかにきこえてくる。

私たち保育者にとって

三月ほど心ゆたかに毎日を送り迎えることはないと思う。

次から次へと遊びを工夫し協力して、飽くことなく遊びつづける  
子どもたちを見守りながら、よく私たち教師は話しあうのである。

「幼稚園生活の中で、今が一番いいときね!」と。

秋がだんだん深まってくるにつれて、進学する小学校のことで、  
若いお母さんたちは迷いあせることが高じてくる。これが子ども心  
にも映じ、何となしに落ちつかない不安定な生活となってあらわれ  
てくる。担任の先生にとってもこれは同じことで、先生はときに母  
の心となり、あるときは子どもの心になって、先生もまたいら  
した不安定の日々を過ごしてきたのである。

それが一月の末になって、漸く全部の子どもの進学がきまり、進  
む小学校からの呼び出し、身体検査、一日参観なども続いておこな  
われ、自分の進学する小学校が親しいものになり、家庭も子どもも  
そして先生もそれぞれに親しみと得心がゆく。

こうして三月になると、進学の問題はすっかりおちつくので、春  
のどけさがいっそう身に沁みて感じるのであろう。

さてこの月の保育の計画であるが、子どもたちの心に、いま絶頂  
にまで盛り上っている

### 小学校進学へのよろこびと期待

それから、もうじきこの園舎を去って、一年生になる子どもたちで  
あるので、何といっても、しぜんそれは

### 幼稚園生活のまとめと思い出

という二つの頂目が表裏をなして浮かんできくる。

### 小学校進学へのよろこびと期待

小学校用の洋服や帽子、ランドセルなどが整えられたり、クレヨ  
ンや画用紙などの学用品が贈られたりすると、小学一年生への期待  
はいっそう拍車がかけられて盛り上ってくる。

この高潮した子どもたちの気持をすすんで迎え入れ、これを巧み  
に利用して、小学校へいって困らないよう、いろいろのしつけの最  
後の仕上げをするように導くことは賢明な策である。

例えば、この頃にはよく学校ごっこがはじまる。

気の勝ったやりてのリーダーが先生になって、八、九人のグルー

プで学校ごっこがはじまったときのことである。

「參觀のお客様が多勢いらっしゃいましたから皆さんご挨拶をしましょう」とか、自由画の時間というときに

「皆さん、人のをまねて描く人はいい子ではありませんよ。自分でよく考えて自分の描きたいと思うものをどんどん描きましょう」とか、また鳩ボツボの体操の時間には

「姿勢を正しく」とか「手をよく伸ばして」とか、または「ピアノによく合わせて」などなど、本当の先生顔負けの指導ぶりである。

生徒になった八、九人の子どもたちも、常には見られないほどの張り切った団体行動をしているのを見て、子ども同志の気合いの乗った学校ごっこでは、こゝも立派なよくわかった先生にもなれるし、生徒でもあるのだなと感心して見とれたことであつた。

この「学校ごっこ」などの遊びは、子どもたちの中から自然に生まれ、しかも時宜に適した願つてもないよい遊びであるから、先生はここをすばやく見てとつて、これに助言や指導を加えてもつと発展させ、その中で、小学生としてこうありたいと願う項目の数々を身につけさせて、小学校へ送りたいものである。幼稚園に入園して以来心掛けてきたのであつて、いまにわかにはじめたものではないが、小学校へ送り出すについて、改めて一人ひとりの子どもを思い浮かべ、もういちど再吟味してみる要があると思う。

身につけさせたい項目としては、次のようなことが考えられる。

○毎日通学して、ある時間授業を受けられるだけの健康体であるかどうか。

○三十分ぐらいの時間を静かに授業をうけることができるかどうか。

○自分の意志を簡単によいからはっきりと人に伝えることができるよう。

○人の話をよくきき、聞いたことの理解ができ、その上それを実行できるように。

○所持品の始末、洋服のぬぎ着などひとりで行けるように。

○日常の挨拶は人にいわれないでもできるように。

○団体行動ができるよう。

○自分の姓名の読み書きができるよう。

なお三月には、ひな祭りをはじめとして、お別れの会、卒業式などがあるので、こうした場合、最年長組、もうじき一年生になるのだという自信のできかかっている、この年長組の人たちを盛り立て、できるだけこれらの会の立案や計画に参画させることも、自重や自信を深める一つの方法である。

更にできれば小学校の先生をお招きし、保護者も先生もともどもお話を伺つたり質問をしたりして、進むべき小学校を理解し、親しみと安定感をもって四月の入学日を持つようにならなければならない。浅はかな虚栄や勝気から、あれもこれもと要求を過大にして子どもを苦しめて小学校への恐怖観念を持たせることなどは、絶対に避けなければならない。

#### 幼稚園生活のまとめと思い出

もうじきこの園舎を去つて小学校へ進む子どもたちである。しぜ

卒業に際しては

アルバムの作製

絵や製作品の整理とまとめ

友だちと交換の記念帳の作製

身体検査や罹病票の整理

など、幼稚園生活のまとめであり同時に思い出ともなる仕事が続いている。

○アルバム まずアルバムの作製であるが、せめて表紙などは子どももよい思い出となる子ども自身の自筆でありたい。アルバム自身についても既製のもの、手製のものなど研究の余地がある。

写真も入園して以来、時に応じ、時節に応じて撮っておいたものを整理して、年代順にできたアルバムへ貼る仕事。なおこのアルバムの中へおさめておく記念の絵、切紙の製作。または姓名の自署など。

○絵の整理 絵は自由にいつでも描きたいときに描くというのが本態であるが、毎月一枚はきまつて保存の絵を描いておいた。三年ないし二年間に相当枚数たまつてもおり、これを小さいときから順に整理して比べてみると成長の著しいのに驚く。

○身体検査や罹病票の整理

以上の三つは、身心の成長発達の著しいのがはっきりと見られるのであるから、幼稚園生活の思い出をよみがえらせ、同時にその成長のあとをはっきりと見とらせて自分の心身の成長を心からよろこぶように仕向けたい。

○その他、入園以来おぼえた歌を、おひな祭りとかお別れの会など

にみんなの前で歌ってきいてもらおう。

○また折々に吹き込んであったテープレコーダーをみんなで聞いてみる、などもよい思い出であり同時に成長の感得に役立つ。

子どもたちの心は前方に見えている希望に忙しく、過去を顧みないのが常である。それゆえに仕向けてもしなければ思い出に耽ることも、自分自身の成長に気がつくこともないであろう。しかしまた一方では、子どもたちは自分の小さいことをきいたり見たりすることもとても喜ぶものであるから、子どもたちの生活のまとめに際し、写真とか絵、その他三年ないし二年間の思い出となり、成長の跡のはっきり見える数々の素材を前にして共に生活した三か年あるいは二か年間のいろいろの思い出を、子どもといっしょに見ながら話しながら仕事を進めたいものである。このことは、子ども心にあるうるおいを生み出すものではないだろうか。

この仕事は子どもたちといっしょに、この仕事は子どもたちが帰ったあとの保育室での仕事、といった具合に、早くから計画をし、手順よくすすめておかないと、卒業までに間に合わなくなり、おしまいはあわてだしたり、いらいらしたりして、せつかくの幼稚園生活の黄金時代を、味わうことも満喫させることもなく過ごしてしまふ憂もなきにしもあらずで心すべきことである。

またこの頃は、芽生えていた水仙やチューリップ、その他の草花、樹の芽なども目ごとに著しい成長をみせてくれる。

外遊びに夢中になったり、卒業の準備に忙殺されるのあまり、これらの自然のうつり変りを忘れては勿体ないことである。